

新開発オペレーティングシステム“CELOS”を EMO Hannover 2013 にて世界初公開

森精機製作所とギルデマイスター社 (DMG)は、2013 年 9 月 16 日(月)からドイツで開催されている金属加工の国際見本市 EMO Hannover 2013(EMO 2013)にて新開発のオペレーティングシステム CELOS を世界初公開しました。

森精機製作所は 2009 年からギルデマイスター社(DMG)と業務提携を開始し、各分野において連携を継続・強化してまいりました。2013 年 10 月 1 日(火)から社名を両社とも「DMG 森精機(「DMG MORI SEIKI)」に変更し、共同開発を一層進めていきます。今回新開発した CELOS は斬新なデザインと直感的な操作を提供し、従来のオペレーティングシステムの印象を覆します。今回 CELOS の特長を、①多種多様なアプリケーションを搭載、②21.5 インチと 15.6 インチのデュアルワイドタッチスクリーンの採用、③使いやすさの追求の3つのポイントからご紹介いたします。CELOS は両社の新機種全てに搭載可能であり、CELOS を搭載した機械は 2014 年 4 月以降より出荷開始となります。

① 多種多様なアプリケーションを搭載

多種多様なアプリケーションを搭載することで、加工の構想から完成までの工程作成を簡素化し、高速化を実現しました。加工工程、機械データの一元管理や文書化、見える化を達成し、作業ミスの減少や作業効率の向上に貢献します。CELOS はお客様へ直感的な操作を提供すると共に、アプリケーションの拡張に対応し、既存のインフラやプログラムとの互換性を確保していますので、お客様の生産に合わせたフレキシブルな対応が可能です。

② 21.5 インチと 15.6 インチのデュアルワイドタッチスクリーンの採用

21.5 インチと 15.6 インチのワイドディスプレイを採用し、スクリーン上のアイコンをタッチすることで操作を進め、シーンに応じて最適な画面へ切り替わります。これにより操作性を従来タイプの操作パネルよりも格段に向上させました。また、ERGO line[®]は統一のインタフェースを搭載しています。

③ 使いやすさの追求

CELOS はオペレーターの立場から使いやすさを追求した設計の基に開発されました。各オペレーターに応じてディスプレイの位置を調整でき、機械の操作状況に応じてボタン表示を切替え、さらに操作していることを音で知らせることで、機械と人のインタラクティブな操作を実現しました。早送り、送りオーバーライドやマニュアルパルスハンドルなどの機械式スイッチは操作性とデザインを迫り及し金型から自社開発しました。また機械操作パネル画面内には、登録された機械モデルが表示され、機械の動作と同期して各軸が動き、さらに動作する軸や方向が表示され、機内を目視しなくとも安心して操作が可能です。

さらに、従来の機械操作パネルの対応言語は表示部が19ヶ国、操作部が4ヶ国でしたが、グローバル化が一層進む製造業の流れに対応し、今回のタッチパネル化とともに表示部、操作部ともに20ヶ国語に対応しています。このため世界各国の工場で安心してご使用いただけます。また、三次元干渉チェック機能を標準装備し、複雑なワークの加工時などの干渉を未然に防ぎ、オペレーターの負担を軽減します。

森精機製作所は、今後もより多くのお客様のニーズにお応えできるよう、製品ラインアップを充実させ市場に投入してまいります。



写真 1. 外観



写真 2. CELOS を搭載した NLX2500/500